

日本海側拠点港「京都舞鶴港」の機能強化について

【担当省庁：国土交通省】

1 コンテナ・フェリー・クルーズ機能の更なる強化

京都舞鶴港について、以下の強化を図っていただきたい。

【舞鶴国際ふ頭：国際海上コンテナ機能の強化（直轄事業）】

- ① 国際海上コンテナ機能の強化のため、舞鶴国際ふ頭第2期整備をお願いしたい。そのためにも、和田地区国際物流ターミナル事業で事業中の臨港道路（上安久線）^{かみあく}の事業を促進（全体事業費約59億円）していただき、当該事業の工事発生残土を第2期整備へ活用されたい。

【前島ふ頭：国際フェリー機能の強化（直轄事業）】

- ② 国際フェリー機能の強化のため、前島ふ頭岸壁の国際フェリー運航に資する改良工事について、工事着手（基本設計等）をお願いしたい。

【第2ふ頭：外航クルーズ機能の強化（補助事業等）】

- ③ 外航クルーズ機能の強化のため、国際クルーズ旅客受入機能高度化事業（平成29年度新規事業）にて事業中の第2ふ頭旅客ターミナル整備について、確実な予算措置（平成30年度必要額約1億円）をお願いしたい。
また、人員確保によるC I Q手続の円滑化・迅速化をお願いしたい。

京都府 の担当課	商工労働観光部 経済交流課(075-414-4844) 商工労働観光部・建設交通部 港湾局 港湾企画課(0773-75-0192)
-------------	--

■概算要求

【国土交通省】

- ▼港湾整備事業 2,966億円（29年度当初予算2,505億円）
日本海側港湾における災害に強い物流ネットワーク構築に係る港湾施設整備
- ▼国際クルーズ旅客受入機能高度化事業 36億円（29年度当初予算30億円）
急増するクルーズ需要やクルーズ船の大型化に対応するための受入環境整備

■機能強化の方向性

	要望箇所・内容
舞鶴国際ふ頭	▶ 国直轄で整備中の舞鶴国際ふ頭への臨港道路（上安久線）の早期完成 ▶ 臨港道路上安久線の工事発生残土を舞鶴国際ふ頭の第2期整備（埋立て）として直轄により活用
前島ふ頭	▶ 前島ふ頭の3号岸壁の老朽化対策に併せた国際フェリー就航に資する改良工事を国直轄事業により着手 ▶ 日中韓間のシャーシ相互通行（車体規格統一）の実施
第2ふ頭	▶ 直轄事業で整備中の第2ふ頭3・4号岸壁機能強化工事の早期完成 ▶ 第2ふ頭旅客ターミナル整備に資する国際クルーズ旅客受入機能高度化事業の予算措置 ▶ C I Q（税関、出入国管理、検疫）手続の円滑化・迅速化に向けた人員確保

■京都舞鶴港のクルーズ・コンテナ・貨物取扱量は大幅に増加

	H24	H25	H26	H27	H28	H29*	
クルーズ船寄港回数	3	7	15	8	17	29	
コンテナ取扱量 (TEU)	合計	5,902	6,906	9,082	8,620	11,493	9,040
	輸出	1,933	2,768	3,553	3,471	4,901	3,805
	輸入	3,969	4,138	5,529	5,149	6,592	5,235
貨物取扱量 (千トン)	合計	11,998	11,081	10,752	11,039	10,829	7,333
	内貿	6,642	6,378	6,168	6,226	6,129	3,766
	外貿	5,356	4,703	4,584	4,813	4,700	3,567

* H29は8月末現在（速報値）

- ▶ クルーズ船寄港の平成29年度は約40回を予定
- ▶ 平成28年度のコンテナ取扱量は平成24年度の約2倍（H28/H24=195%）
- ▶ 貨物取扱量は平成22年度から7年連続で10,000千トン超え

■臨港道路上安久線 事業の概要

全体事業費 約58.6億円
 本年度までの事業内容 地元調整、地形測量、土質調査
 平成30年度の事業内容 用地買収、詳細設計完了、土砂受入に必要な潜堤築造
 工期 平成19年度～30年代半ば

事業内容	～29年度	30年度	31年度	32年度～
地元調整 測量調査		用地買収 詳細設計 潜堤築造	埋文調査 用地買収 潜堤築造	道路工事 土砂受入

2 太平洋側のバックアップ機能等の確保

南海トラフ地震発生時における太平洋側のバックアップ機能や災害に強い物流ネットワークの構築を図る観点から、以下の施設管理や整備を促進していただきたい。

〔直轄事業〕

- ① 国有港湾施設における長寿命化を図る予防保全事業の実施をお願いしたい。(舞鶴港予防保全事業等)
- ② 国直轄による予防保全事業で整備中の第2ふ頭岸壁の老朽化対策(舞鶴港予防保全事業等 全体事業費約19億円)の着実な実施をお願いしたい。
- ③ 京都舞鶴港へのアクセス道路として、改築事業(幹線道路ネットワーク事業)で整備中の国道27号西舞鶴道路(全体事業費約245億円)の整備促進をお願いしたい。

〔交付金事業〕

- ④ 港湾管理者が管理する施設の長寿命化を図るため、社会資本整備総合交付金による必要予算の確保(平成30年度必要額約1.6億円)をお願いしたい。

※平成30年度必要額内訳

- ・ ^{おおのへ}大野辺棧橋 補修 約0.4億円
- ・ 第4ふ頭 岸壁補修 約0.4億円
- ・ ^{しもふくいまた}下福井喜多臨港道路 補修 約0.9億円

■概算要求

【国土交通省】

▼港湾整備事業 2,966億円(29年度当初予算2,505億円)

日本海側港湾における災害に強い物流ネットワーク構築に係る港湾施設整備

■港湾施設における老朽化の状況(京都舞鶴港)

▶ 港湾施設の約1/4が対応が必要な状態

▶ そのうち、国有施設は約35%が対応が必要な状態

性能低下度	港湾施設(国有、府有)				うち国有港湾施設					
	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D
施設数	206	13	22	52	119	38	10	3	15	10

■国道27号西舞鶴道路 事業概要

全体事業費 約245億円

平成29年度までの執行額 約40億円(H28、H29は当初予算で算定)

平成30年度の工事内容 設計、用地買収、工事

工期 平成19年度～

進捗状況 事業全体 13%(事業費比)

用地取得 53%(用地費比)

(平成28年度末現在)

日本海側拠点港としての機能強化



国際フェリー機能の強化

国際フェリー就航に資する国直轄事業による岸壁改良工事の着手

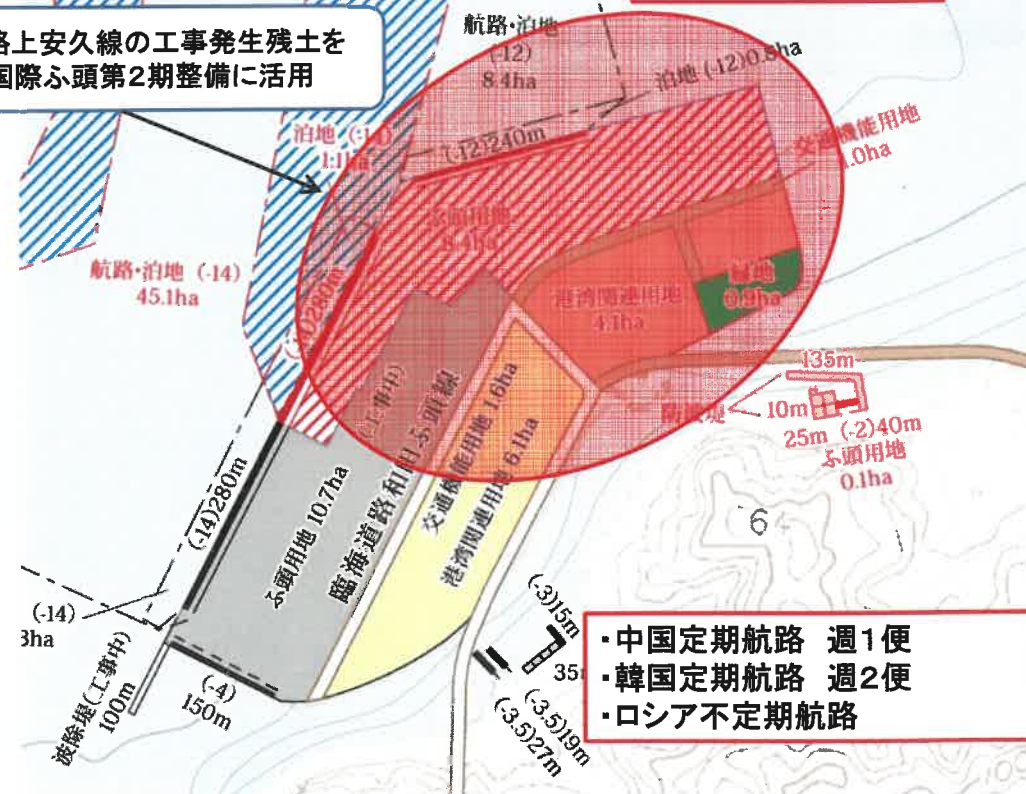
旅客ターミナル施設の補助採択



国際海上コンテナ機能の強化

舞鶴国際ふ頭

臨港道路上安久線の工事発生残土を舞鶴国際ふ頭第2期整備に活用



外航クルーズ機能の強化

第2ふ頭

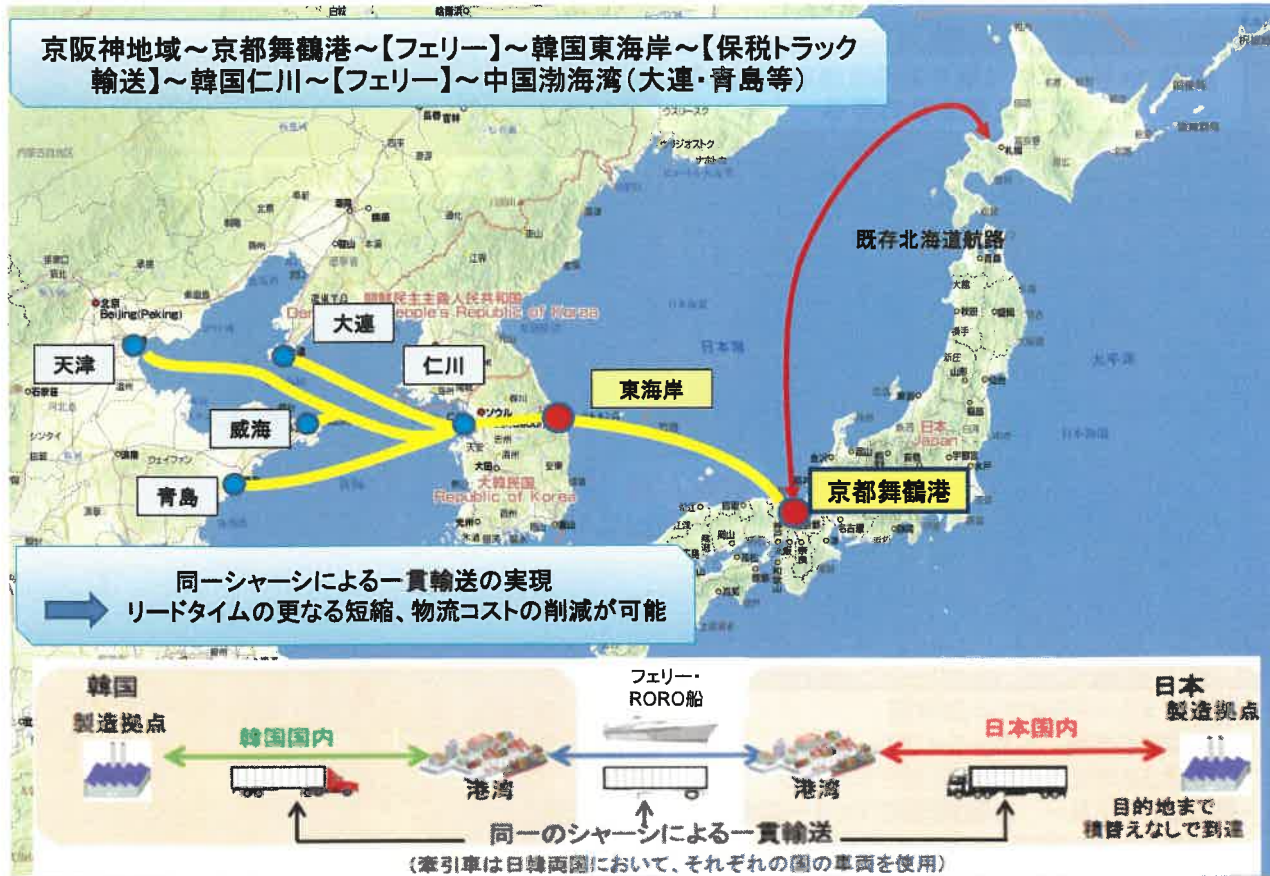
舞鶴国際ふ頭

クルーズ船寄港増に対応した予防保全事業の円滑実施



日中韓間におけるシャーシの相互通行

京阪神地域～京都舞鶴港～【フェリー】～韓国東海岸～【保税トラック輸送】～韓国仁川～【フェリー】～中国渤海湾（大連・青島等）

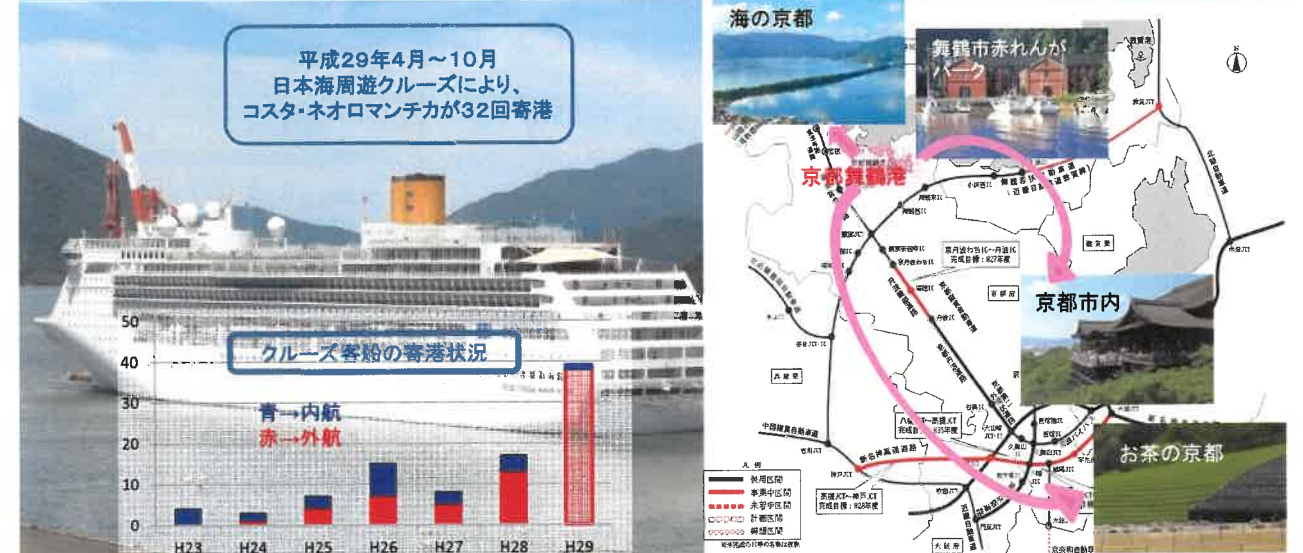


京都舞鶴港の日本海側拠点港機能強化に伴うストック効果

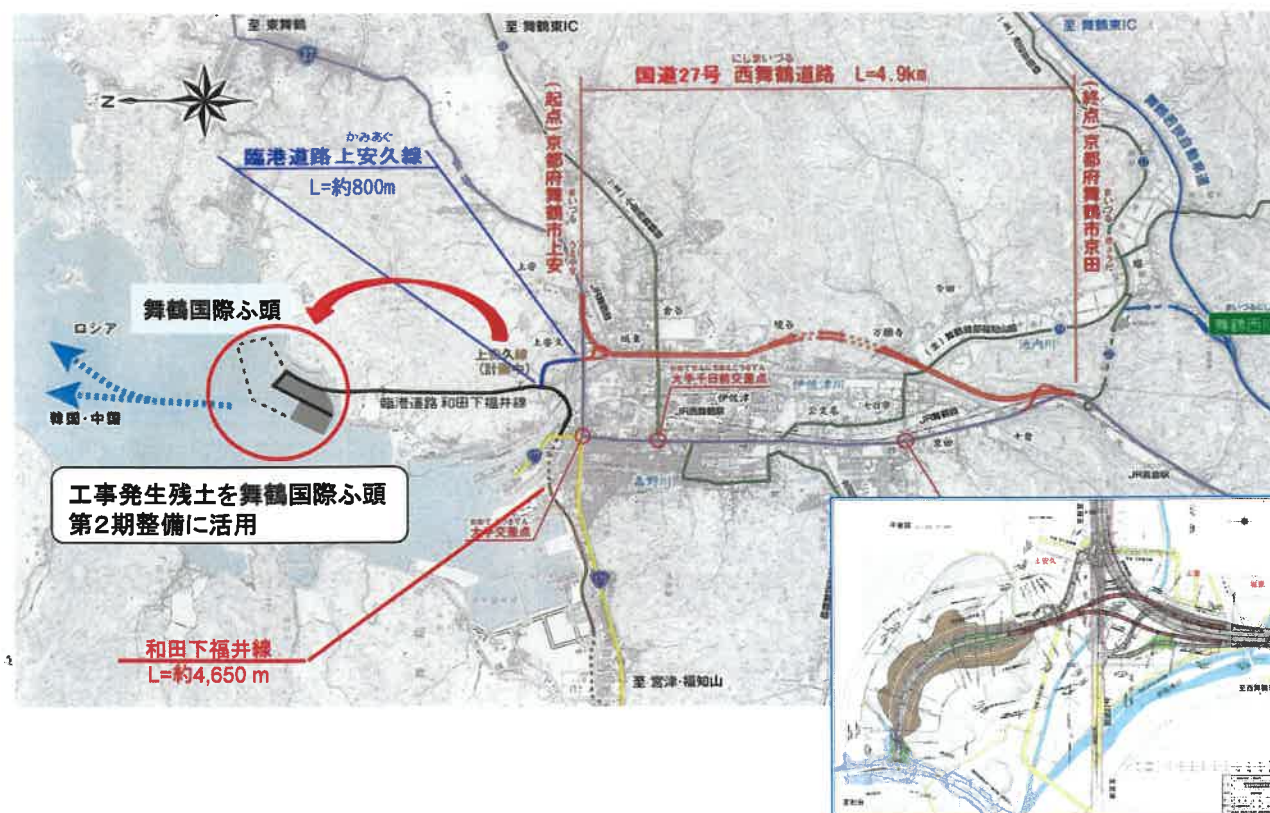
整備効果

【人流】

○第2ふ頭（～11万t級）や国際ふ頭（13万t級）でのクルーズ船受入環境の整備により、H28クルーズ船の寄港数が過去最高の17寄港。H29は約40寄港を予定。
○京都縦貫道の全線開通（H27年7月）効果もあり、H28から日本海周遊クルーズ開始。



臨港道路・国道27号西舞鶴道路整備状況



整備効果

【物流】

○国際ふ頭の供用開始や岸壁機能の強化に伴い、貨物取扱量が7年連続で1,000万t超え
○コンテナ取扱量については、国際ふ頭供用開始時（H22年4月）の2.8倍の水準
○コンテナ定期航路の増（韓国2航路、中国1航路、日韓露国際フェリー1航路）
（H22 1航路→H28 4航路）
○企業立地促進（H26年10月日本通運倉庫、H27年10月あっさり漬け食品工業流通加工施設等）

